

道徳学習指導案

5年3組 36名 指導者 西國原 拓也

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 問い直す活動において、「見える図」を活用し、資料と自分の体験を関連付けながら道徳的価値について考えることは、子どもが道徳的価値を理解する手立てとして有効であったか。
- 協同的な「学び合い」において、「思考をつなげる言葉」を使って対話活動を行うことは、資料や自分の体験から道徳的価値をより深く追求する手立てとして有効であったか。

1 主題名 社会のためにできること (資料名「小さな手から」〈読み物―「学研教育みらい」〉)

2 ねらい

働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立とうとする心情を育てる。

(4-④ 勤労, 社会奉仕, 公共心)

3 主題について

(1) 主題の価値

本主題は、高学年の内容項目 4-④「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。」で、これは、仕事に対して誇りや喜びをもち、働くことの意義を自覚し、進んで社会の役に立とうとする心をもった子どもを育てる内容項目である。これは、低学年の「働くことのよさを感じて、みんなのために働く。」と、中学年の「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。」からつながったものである。

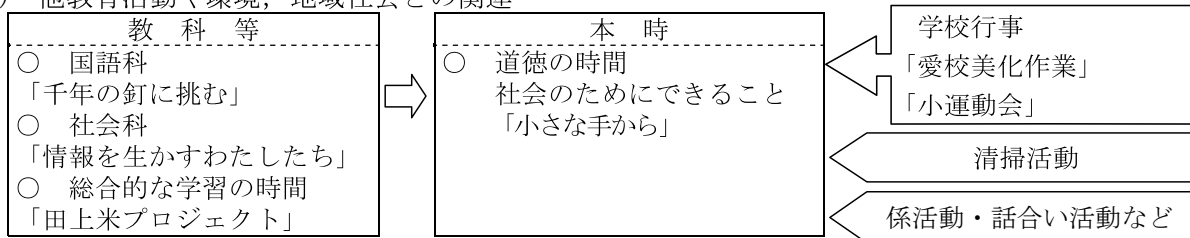
「働く」ということは、自分自身が生活していくために必要なことである。それと同時に、社会全体を支える大切なものでもある。なぜなら、働くことで社会的に自己を実現していくことができたり、社会や誰かのために役立ち、社会の幸福に貢献することができたりするからである。また、「社会奉仕」とは、自分の時間を費やし、見返りを求めず、地域や社会のために役立つことである。人々への奉仕の喜びを感じさせつつ、社会に役立つ社会参画を目指している。

この期の子どもは、働くことに対しての喜びをもち、積極的にみんなの役に立とうとする子どもがいる一方で、清掃や給食などの当番活動や地域清掃といった奉仕活動を面倒くさがる子どももいる。また、社会の変化に伴い、子どもが勤労や社会への奉仕の体験をする場が家庭も含め不足している傾向にある。しかも、その少ない機会をうまく生かせない状況にもある。そのため、子どもに勤労や社会への奉仕の意義を理解させることは容易ではなくなってきている。

そこで、本主題では、資料や自分の体験と関連付けながら、「みんなに喜んでもらえたよ。」

「私は大事な仕事をしているんだな。」と働くことの素晴らしさを実感させたい。さらに、自分のためのみならず社会生活を支える勤労の大切さを理解させ、社会奉仕活動など公共のために役立つ社会参画を目指していくようにしたい。また、社会に役立つ喜びは自分への自信になり、将来の力になることに気付くことは大変意義深いと考える。

(2) 他教育活動や環境、地域社会との関連



(3) 子どもの実態について

平成 27 年 4 月 10 日 調査人数 36 名

① ボランティアとは、どんなことですか。
・ 朝の掃除 ・ 募金活動 ・ ごみ拾い ・ 進んですること
・ 学校をきれいにすること ・ あいさつ運動 ・ みんなのためにすること
② ボランティアをしたことがありますか。
ある 36 名 ない 0 名
③ どんな気持ちで、ボランティアをしていますか。
・ 一生懸命な気持ちで頑張るぞ ・ 分かりません ・ みんな喜んでくれるかな
・ 学校をきれいにしよう ・ みんなのために頑張りたい ・ みんなが困らないように
④ ボランティアした後、どんな気持ちになりましたか。
・ すすがすがしい ・ いいことをしたな ・ 頑張るぞ ・ すっきり
・ きれいになってうれしい ・ ほめられてよかった ・ 少し得した
・ 役に立てたかな ・ やってよかった ・ また、みんなの役に立ちたい
⑤ ボランティアをすることは、なぜ大切だと思いますか。
・ みんなが喜ぶから ・ みんなの役に立つから ・ きれいになるから
・ 自分が気持ちよくなるから ・ 自分がうれしくなるから ・ 分かりません
・ みんなが気持ちよく過ごせるようにするため ・ よりよくするため

【考察】

実態アンケート①②より、今までの体験を基に、「ボランティア」について自分なりの考えをもっていることが分かる。中でも、学校で決められた枠組での活動をボランティアと捉えている子どもが多い。③より、多くの子どもは、高学年として学校をよくするために頑張ろうという意識で活動に取り組んでいるが、決められたからやるといった消極的な考えで取り組んでいる子どもも見られる。④より、消極的な考えでボランティアに取り組んだ子どもも、活動した後のすがすがしさや、最後までやり遂げた喜びを感じていることが分かる。⑤より、ボランティアをする意義については、自分のためになるだけでなく、みんなのためになることに気付いていることが分かる。しかし、子どもが行っているボランティアは、学校内での活動が主となっているため、みんなと捉えている範囲が、学級や学校などの身近な対象であり、社会全体に目を向けている子どもはほとんど見られなかった。

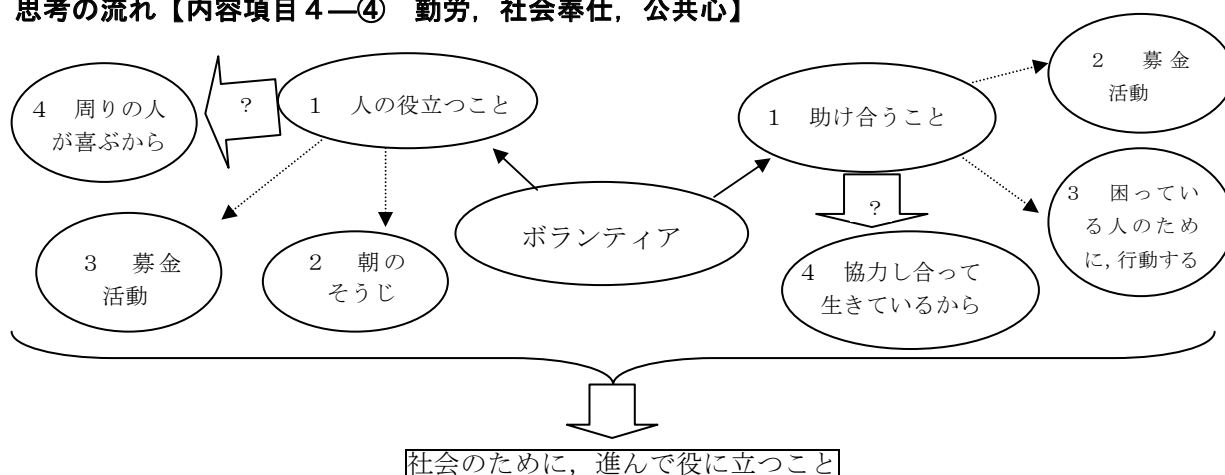
そこで、子どもが考えているボランティアについて取り上げ、地域や社会全体にまで対象を広げることで、そういった活動が社会を支えていることに気付くことができるようにしたい。また、これまでにしてきたボランティアと資料に出てくるボランティアを比較して考えることで、ボランティアとは決められた時間に与えられた活動をするのではなく、自主的に社会のために見返りを求めずに、社会のために役に立つことであることに気付くようにしたい。

(4) 資料について

本資料は、震災の被害に遭って不自由な避難所生活をしていたゆみ子が、担任の大西先生や校長先生たちが被災者のために働いている姿を見て、無気力になっていた自分から仲間と共に行動する自分へと心が動かされていく話である。気落ちして、ぼう然とする人たちの中で働いている先生たち、自分の家も焼かれて同じ被害者なのに「こんなときは、おたがいさまですから。」と、行動している大西先生の姿がまぶしく感じる。その時、ゆみ子は、自分でできることは何か考え、避難所新聞を作ることにしたという話になっている。

そこで、本資料を使って日頃行っているボランティアと比較して考えさせることで、ボランティアについての理解をより深め、社会のためにできることをしようとする心情を高めることができる。

4 思考の流れ【内容項目4—④ 勤労、社会奉仕、公共心】



5 展開に当たって

見つめる活動では、事前のアンケートを活用し、子ども一人一人が思っている「ボランティア」についての焦点化を図る。そのうえで、「ボランティアとは、どのようなことだろう。」という共通の問題意識を喚起する。

問い直す活動では、まず、「思考スキル」を活用し、資料や自分の体験を関連付けながら、「ボランティア」についての理解を深めることができるようにする。その際、思考をつなげる記号を使ったり、思考した順番に番号を付けさせたりすることで、子どもがどの流れでその思考にたどりついたのか把握できるようにする。

次に、対話活動中は、「例えば」「なぜなら」等の思考をつなげる発話をするすることで、「ボランティア」についての思考を広げ、深めることができるようにする。また、対話活動が積極的に行われていないグループを中心に机間指導を行う。さらに、教師が、思考をつなげる発話をするすることで、各グループから出た、感じ方や考え方を短冊に書かせ、似ている考えを分類したり、関連付けたりしながら、一段高い「ボランティア」についての道徳的価値に迫ることができるようにする。

振り返る活動では、授業前の自己の生き方が、授業を通してどう変わったかを、比較しながら考えさせる。その際、授業の始めと何が変わったのかを明らかにさせ、子どもの考え方や感じ方を価値ある行為と意味付けし、これからの自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

あたためる活動では、友達の感じ方や考え方を紹介し、新しい感じ方や考え方に気付いたり、更に深めたりすることができるようにし、道徳的实践意欲を高めるようにする。

6 本時の展開

□ 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て	
見つめる	3	1 アンケートの結果をもとに本時のめあてをつかむ。 [・ スリッパを並べたこと。 ・ ごみを拾ったこと。 ・ 朝の掃除をしたこと。] 2 本時のめあてを確認する。 ボランティアとは、どのようなことだろう。	○ アンケート結果を提示することで、ボランティアについて子ども一人一人が考えていることを確かめ、「ボランティアとは、どのようなことだろう。」という共通の問題意識を喚起する。
問い直す	28	3 資料「小さな手から」を基に話し合う。 (1) 一人で考える。 関連付ける [・ みんなの役に立つこと。 ・ みんなで助け合うこと。 ・ 自分にできることをすること。] (2) グループでの対話活動を行う。 関連付ける [・ 周りの人の役に立つこと。 ・ 困っている人のために行動すること。 ・ 自分から見付けて行動すること。] (3) 学級全体での対話活動を行う。 構造化する [・ 社会のために役立つこと。 ・ 自分から進んで行動すること。 ・ 互いに協力して社会を支えること。]	○ 「見える図」を活用することで、資料や自分の体験を関連付けながら、「ボランティア」についての理解を深めることができるようにする。 ○ 対話活動において、「例えば」「なぜなら」などの思考をつなげる発話をする中で、「ボランティア」についての思考を広げ、深めることができるようにする。 ○ 教師が、思考をつなげる発話をする中で、各グループから出た、感じ方や考え方を関連付けながら、一段高い「ボランティア」についての道徳的価値に迫ることができるようにする。
振り返る	10	4 本時の学習の感想を書く。 [・ ボランティアとは、決められたことをするのではなく、自分から進んで行動することが大切なんだ。 ・ 今までは、ただ言われたことだけをしていただけ、自分のできることを見付けていきたいな。 ・ これからも、もっと社会のためになることをしたいな。そうすれば、もっと社会がよくなりそうだな。]	※ 振り返る活動における子どもの考え方を机間指導において次の視点で評価する。 (ワークシート・道徳ノート) ア 道徳的価値についての理解をより深めることができたか。 イ これまでの自分とのかかわりで考えることができたか。 ウ これからの自分の生き方について考えることができたか。 ○ 本時の学習を通して、授業前の考えと授業後の考えがどう変わったのかを捉えさせ、道徳的価値に関して思ったことや考えが変わったことなどを書くように助言する。 ○ 自己の望ましい生き方を感得できるように、自分のよさを生かして活動している様子を紹介し、よりよい生き方をしようとする意欲をあたためることができるようにする。
あたためる	4	5 教師の説話を聞く。 [・ 社会のために進んで行動するぞ。 ・ 自分が進んで働くことは、社会のためになっているのだなあ。 ・ これからも、自分でできることを見付けてボランティアをしていきたいなあ。]	